

## 経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（平成26年度）

| 経営協議会の学外委員からの意見  | 本学の取組状況  |
|--|--|
| <p>◎個人情報の流出について</p> <p>毎年一回、コンプライアンスと個人情報システムについて、ウェブ上でのテストを義務付けてはどうか。</p> <p style="text-align: right;">（平成26年5月8日 経営協議会）</p> | <p>平成26年度の情報セキュリティ及び個人情報保護自己点検の実施の際、本学 Moodle を使用した小テスト形式によりチェックを行った。また、満点でない場合、テストの解説を読み、また部局長による指導を受けるなどすることで満点が取れるまで実施した。</p> |
| <p>◎年俸制の導入について</p> <p>年俸制を大学改革のプラス要因として考えてもらいたい。千葉大学が飛躍する大きなチャンスと言える。</p> <p style="text-align: right;">（平成26年6月18日 経営協議会）</p> | <p>適切な業績評価に基づく成果主義型の給与体系による教育研究活動の活性化を図るため、年俸制を10月から導入した。</p>  |
| <p>◎クロスアポイントメント制度の導入について</p> <p>教員を千葉大学だけで考えず、他の大学との混合給与にしてはどうか。</p> <p style="text-align: right;">（平成26年6月18日 経営協議会）</p>      | <p>卓越した人材の流動化により教育、研究、産学連携活動等を推進するため、クロスアポイントメント制度を平成27年4月から導入した。</p>  |

|  |  |
|--|--|
| <p>◎個人情報の保護・管理の徹底（再発防止策）について</p> <p>利便性よりも個人情報保護を優先するという考え方をしなければいけない。それが制度として機能しているかをチェックしていくことが重要である。</p> <p>（平成26年12月11日 経営協議会）</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修登録システム等を教員が不必要に学生の成績情報等を自由にダウンロードできないように改修し、学生の成績情報等個人情報の管理が学務担当事務職員を通じて適切な管理の下に、必要なものだけを教員が入手できるように改善した。</li> <li>・「教務情報の保護に関するWG」を危機管理委員会の下に設置し、各部局からヒアリング等を実施しながら、個人情報の漏えい事故のリスク管理と教育の円滑な遂行を調整し、学長裁定として「学生の成績評価に関する手順書策定のためのガイドライン」を制定し、チェック機能が働く仕組みを整備した。</li> </ul> |
| <p>◎第3期中期目標期間における機能強化(研究)の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「免疫システム調節治療学」は、千葉大学として支援を強化すべき分野である。</li> <li>・「キラリティ—物質科学」は、今後イノベーションに貢献する可能性が高いのではないか。</li> <li>・「医工学」は具体的成果が期待できる分野である。</li> </ul> <p>（平成27年1月8日 経営協議会后意見交換会）</p> | <p>多様な観点からの客観的な意見を踏まえて第3期中期目標・中期計画（素案）に具体的に反映させた。</p>  |
| <p>◎国際教養学部の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文系と理系を併せて学べる学部は、千葉大学</li> </ul>  | <p>グローバル化によって生起する地球規模の諸問題や現代日本において地域社会が抱える少子高齢化等の諸問題の双方に対処するとともに、その課題の解決策を世界へ発信して我が国のプレゼンスを高めるグローバル人材を新たに育成するため、「国際教養学部」を平成28年度に設置することを</p>  |

ひいては日本の国立大学にとって非常に必要な学部だと思うので、是非、頑張ってください。

・世界の課題を日本の力で解決していくという大きな構想のもとに学部を作ることは素晴らしい。今後、フィールドスタディを含めた研究を行うなど、千葉の色彩が出るような展開が良いのではないか。

(平成27年3月26日 経営協議会)

決定した。新学部においては、人文社会科学・自然科学・生命科学の学問分野を混合し、特定の専門領域に限定しない新たな教育課程を構築するとともに、社会的学びや主体的学びという特色ある教育を行うこととしている。

また、地域と連携・協働しながら、課題解決の実践手法を体得させるフィールドスタディとして、「地域PBL型実習」及び「持続的地域貢献活動実習」等の科目を開設することとしている。